

# 12 文脈に即して

|    |  |
|----|--|
| 組  |  |
| 番号 |  |
| 氏名 |  |

1

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

A 今日、兄と同級生の石塚さんが戦災復興記念館に行った。

そこで、B 戦後の人々のたゆみない努力によって、C 郷土の文化が築かれてきた、ということを知ったそうだ。僕も、地域の文化や歴史についていろいろ調べたくなった。

①

今日、兄と同級生の石塚さんが戦災復興記念館に行った。は、主語が二通りに考えられます。「兄」と「石塚さん」の二人が「行った」ことをはっきりさせるためには、どう書き換えればよいでしょうか。(Aで使われている助詞だけを互いに入れ替えて書きなさい。)

注 「兄が同級生の石塚さんと・・・行った」となる。

( ) と ( ) と ( ) が ( ) を書き換える

②

B 戦後の人々の を「戦後の人々は」にすると、C 郷土の文化が築かれてきたの部分は、どう書き換えればよいでしょうか。「戦後の人々は」に続けて書きなさい。

戦後の人々は、郷土の文化を築いてきた。

2

学級活動の時間に石川さんたちは、「クラスのみんなで取り組みたいこと」ということについて提案することになりました。次の文章は、その作文です。これを読んで、問いに答えなさい。

先日、就職活動まっただなかの八つ年上の姉が、何かを読みふけていた。中学校のときのクラスの文集で、そこに姉の文章もいくつか載っているものだった。「ドリカム・プラン」という表題がついている。中学生当時はそれほど気にとめていなかったその文集を就職間際になって読む気になったらしい。そのころの自分はどうなことを考えていたのか、また、どんな友達がいて、その友達はどんなことを書いていたのかなどについて、興味がわいてきたのだと照れながら話してくれた。

「クラスで文集を作ろう」というのが私の提案だ。なぜこのような提案をするのかというと、思い出を何か形あるものとして残したい。文集は、いつ読んでも、そのとき、その場に忘れてしまさまな思い出がわいてきて楽しい。姉のように五年、十年あるいはそれ以上経ってから読み返し、懐かしく思い出にひたることができる。また、文集の原稿を書いているうちに、過去のことだけでなく自然に自分の将来についても考えを深めることになる。

クラスみんなの中には、あらたまった文章を書くのが苦手だという人もいると思う。他の表現方法のほうが得意だという人もいると思う。そこで、学校生活の思い出や将来の夢など、各自の思い思いの内容をイラストなども含めて、形式や文体にあまりこだわらずに自由に書いてよいというようにすれば、みんなが取り組めるのではないか。

最低限、悪口や人の傷つくようなことだけは書かないように気を配ればよい。今から心積もりをしておき、三月には一年間のしめくりとして文集を完成させよう。

(仙台市中学校教育研究会国語部会編『こだま』所収生徒作品より)

- ① 広報係のみんなでこの提案する文章を読んだところ、「残したい」の部分が表  
現上不適切であることに気がつきました。この文の内容を変えないように、「残し  
たい」の部分を適切に書き直しなさい。

## 残したいからだ

- ② 次の1〜5を、この作文の段落内容順に並べ替えなさい。

- 1 文章を書くうえで、この作文の段落内容順に並べ替えている。
- 2 提案とその理由を示している。
- 3 読み手に呼びかけをしている。
- 4 具体的なエピソードをあげている。
- 5 予想される反対意見に対応している。

4 ↓ 2 ↓ 5 ↓ 1 ↓ 3